

## Apache モジュール mod\_autoindex

説明:	Unix の <code>ls</code> コマンドや Win32 の <code>dir</code> シェルコマンドに似た ディレクトリインデックスを生成する
ステータス:	Base
モジュール識別子	autoindex_module
:	
ソースファイル:	mod_autoindex.c

### 概要

ディレクトリのインデックスは二つの情報源のうちの 一つから生成できます:

- 普通は `index.html` と呼ばれる ユーザによって書かれたファイル。 `DirectoryIndex` ディレクティブでこのファイル名を設定します。これは `mod_dir` で制御されます。
- もしくは、サーバによって生成された一覧。その他のディレクティブでこの一覧の書式を制御します。 `AddIcon`, `AddIconByEncoding` と `AddIconByType` を使うことで、様々なファイルタイプに対してアイコン一覧を セットします。つまり、リストされたファイル毎に、ファイルにマッチした一番最初のアイコンが表示されます。これらは `mod_autoindex` で制御されます。

望むならば、自動インデックス生成を完全に除去（あるいは置換）できるように、この二つの機能は分離されています。

自動インデックス生成は `Options +Indexes` を使うことで有効になります。詳細については、 `Options` ディレクティブをご覧ください。

もし `FancyIndexing` オプションが `IndexOptions` ディレクティブに与えられているならば、列の先頭は表示の順番を制御するリンクになります。先頭のリンクを選択すると、一覧は再生成されて その列の値でソートされます。同じ先頭を続けて選択すると、交互に昇順と降順とになります。これらの列の先頭のリンクは、 `IndexOptions` ディレクティブの `SuppressColumnSorting` オプションで消すことができます。

“Size” でソートした場合は、用いられるのは 実際のファイルのサイズであって、表示の値ではないことに注意してください - たとえ両方ともが “1K” と表示されていたとしても、1010 バイトのファイルは必ず 1011 バイトのファイルよりも前（昇順の場合）に表示されます。

### トピック

Autoindex リクエストクエリー引数.....	2
URI References.....	12

### ディレクティブ

AddAlt.....	3	DefaultIcon.....	6
AddAltByEncoding.....	3	HeaderName.....	6
AddAltByType.....	4	IndexIgnore.....	7
AddDescription.....	4	IndexOptions.....	8
AddIcon.....	5	IndexOrderDefault.....	11
AddIconByEncoding.....	5	ReadmeName.....	12
AddIconByType.....	6		

## Autoindex リクエストクエリー引数

Apache 2.0.23 で、コラムソートのためにクエリー引数を再編成して、新しいクエリーオプションのグループを導入しました。出力に対するクライアントのすべての制御を効率的に抹消できるように、IndexOptions IgnoreClient が導入されました。

コラムソートのヘッダそれぞれが、下記のソートクエリーオプションを付加する 自分自身を参照するリンクです。下記のオプションのどれでも、ディレクトリリソースへのリクエストに加えることができます。

- C=N は、ファイル名でソートします。
- C=M は、更新日時、ディレクトリ、ファイル名の順でソートします。
- C=S は、サイズ、ディレクトリ、ファイル名の順でソートします。
- C=D は、説明、ディレクトリ、ファイル名の順でソートします。
- O=A は、昇順で表をソートします。
- O=D は、降順で表をソートします。
- F=0 は、単純な表の書式にします。(FancyIndex ではありません。)
- F=1 は、FancyIndex 表示の表の書式にします。
- F=2 は、表を HTML のテーブルを使った FancyIndex の書式にします。
- V=0 は、バージョンによるソートを無効にします。
- V=1 は、バージョンによるソートを有効にします。
- P=pattern は、与えられた pattern に適合したファイルのみを表示します。

”P (パターンの P)” クエリー引数は、通常の IndexIgnore ディレクティブが処理された後に検査され、ファイル名全てが、他の autoindex リスト処理と同様の判定基準下に置かれ続けることに注意してください。mod\_autoindex のクエリー引数パーサ (解析) は、認識不能なオプションにぶつかると即座に停止します。クエリー引数は上の表に従って正しい形式になっていなければなりません。

下の単純な例は、これらのクエリーオプションを表します。これをそのまま切り取って HEADER.html ファイルに保存することもできます。mod\_autoindex が X=Go 入力にぶつかる前に 引数が全て解釈されるように、未知の引数 “X” はリストの最後に置かれています。

```
<form action="" method="get">
  Show me a <select name="F">
    <option value="0"> Plain list</option>
    <option value="1" selected="selected"> Fancy list</option>
    <option value="2"> Table list</option>
  </select>
  Sorted by <select name="C">
    <option value="N" selected="selected"> Name</option>
    <option value="M"> Date Modified</option>
    <option value="S"> Size</option>
    <option value="D"> Description</option>
  </select>
```

```
<select name="O">
  <option value="A" selected="selected"> Ascending</option>
  <option value="D"> Descending</option>
</select>
<select name="V">
  <option value="0" selected="selected"> in Normal order</option>
  <option value="1"> in Version order</option>
</select>
Matching <input type="text" name="P" value="*" />
<input type="submit" name="X" value="Go" />
</form>
```

## AddAlt ディレクティブ

---

説明:	アイコンの代わりに 表示される、ファイル名で選択された代替テキスト
構文:	AddAlt string file [file] ...
コンテキスト:	サーバ設定ファイル, バーチャルホスト, ディレクトリ, .htaccess
上書き:	Indexes
ステータス:	Base
モジュール:	mod_autoindex

**AddAlt** は、FancyIndexing において、アイコンの代わりに表示する代替テキストを提供します。file は、説明するファイルのファイル拡張子、ファイル名の一部、ワイルドカード表現、完全なファイル名の どれかになります。string に空白がある場合は引用符 ( " か ' ) で囲む必要があります。この文字列は、クライアントが画像を表示できない場合や 画像のロードを無効にしている場合や アイコンの取得に失敗したときに表示されます。

### 例

```
AddAlt "PDF file" *.pdf
AddAlt Compressed *.gz *.zip *.Z
```

## AddAltByEncoding ディレクティブ

---

説明:	アイコンの代わりに表示される、MIME 符号化方法で選択された 代替テキスト
構文:	AddAltByEncoding string MIME-encoding [MIME-encoding] ...
コンテキスト:	サーバ設定ファイル, バーチャルホスト, ディレクトリ, .htaccess
上書き:	Indexes
ステータス:	Base
モジュール:	mod_autoindex

**AddAltByEncoding** は、FancyIndexing において、アイコンの代わりに表示する代替文字列を提供します。MIME-encoding は有効な符号化、例えば x-compress です。string に空白があるときは、引用符 ( " か ' ) で囲む必要があります。この文字列は、クライアントが画像を表示できない場合や 画像のロードを無効にしている場合や アイコンの取得に失敗した

ときに表示されます。

例

```
AddAltByEncoding gzip x-gzip
```

## AddAltByType ディレクティブ

---

説明:	アイコンの代わりに 表示される、MIME タイプで選択された代替テキスト
構文:	AddAltByType string MIME-type [MIME-type] ...
コンテキスト:	サーバ設定ファイル, バーチャルホスト, ディレクトリ, .htaccess
上書き:	Indexes
ステータス:	Base
モジュール:	mod_autoindex

`AddAltByType` は、`FancyIndexing` において、アイコンの代わりに表示する代替文字列を設定します。MIME-type は有効なタイプ、例えば `text/html` です。string に空白があるときは、引用符 ( " か ' ) で囲む必要があります。この文字列は、クライアントが画像を表示できない場合や 画像のロードを無効にしている場合や アイコンの取得に失敗したときに表示されます。

例

```
AddAltByType 'plain text' text/plain
```

## AddDescription ディレクティブ

---

説明:	ファイルに対して表示する説明
構文:	AddDescription string file [file] ...
コンテキスト:	サーバ設定ファイル, バーチャルホスト, ディレクトリ, .htaccess
上書き:	Indexes
ステータス:	Base
モジュール:	mod_autoindex

`FancyIndexing` において、ファイルに対して表示する説明を設定します。file は説明するファイルのファイル拡張子、ファイル名の一部、ワイルドカード表現、完全なファイル名の どれかになります。string は二重引用符 ( " ) で囲まれます。この文字列は、クライアントが画像を表示できない場合や 画像のロードを無効にしている場合や アイコンの取得に失敗したときに表示されます。

例

```
AddDescription "The planet Mars" /web/pics/mars.gif
```

通常のデフォルトの説明領域は 23 バイトの幅です。 `IndexOptions SuppressIcon` オプションで 6 バイト追加、 `IndexOptions SuppressSize` オプションで 7 バイト追加、

## Apache モジュール mod\_autoindex

IndexOptions SuppressLastModified オプションで 19 バイト追加されます。 ですから、デフォルトの説明コラムの最大幅は 55 バイトになります。

このコラムの大きさを上書きしたり、説明が無制限長でもよいようにするための詳細に関しては、DescriptionWidth という IndexOptions のキーワードをご覧ください。

**警告**

AddDescription で定義された説明テキストは、タグや文字列といった HTML マークアップを含むことができます。 もし、説明コラムの幅によってタグ付けされた要素が丸め込まれた（太字の語句の最後が切れるといった）場合、出力結果は、ディレクトリ一覧の残りの部分に影響を与えるでしょう。

## AddIcon ディレクティブ

説明:	ファイルに表示するアイコンを名前で選択
構文:	AddIcon icon name [name] ...
コンテキスト:	サーバ設定ファイル, バーチャルホスト, ディレクトリ, .htaccess
上書き:	Indexes
ステータス:	Base
モジュール:	mod_autoindex

FancyIndexing において、name で終わるファイルの隣に表示するアイコンを設定します。icon は、(% でエスケープされた) アイコンへの相対 URL か、他の書式 (alttext, url) です。ここで alttext は、非グラフィカルブラウザ向けにアイコンに付けられたテキストタグです。

name は、ディレクトリに対応する `^^DIRECTORY^^` か、空白行に対応する `^^BLANKICON^^` (一覧が正しく表示されるために) か、ファイル拡張子か、ワイルドカード表現か、ファイル名の一部か 完全なファイル名です。

**例**

```
AddIcon (IMG,/icons/image.xbm) .gif .jpg .xbm
AddIcon /icons/dir.xbm ^^DIRECTORY^^
AddIcon /icons/backup.xbm *~
```

もし可能なら、AddIcon より AddIconByType を優先的に使うべきでしょう。

## AddIconByEncoding ディレクティブ

説明:	ファイルに表示するアイコンを MIME 符号化方法で選択
構文:	AddIconByEncoding icon MIME-encoding [MIME-encoding] ...
コンテキスト:	サーバ設定ファイル, バーチャルホスト, ディレクトリ, .htaccess
上書き:	Indexes
ステータス:	Base
モジュール:	mod_autoindex

---

## Apache モジュール mod\_autoindex

---

FancyIndexing において、ファイルの隣に表示するアイコンを設定します。 icon は、( % でエスケープされた ) アイコンへの相対 URL か、他の書式 ( alttext, url ) です。 ここで alttext は、非グラフィカルブラウザ向けにアイコンに付けられたテキストタグです。

MIME-encoding は、要求されたエンコードに該当する ワイルドカード表現です。

例

```
AddIconByEncoding /icons/compress.xbm x-compress
```

---

## AddIconByType ディレクティブ

---

説明:	ファイルの隣に表示するアイコンを MIME タイプによって選択
構文:	AddIconByType icon MIME-type [MIME-type] ...
コンテキスト:	サーバ設定ファイル, バーチャルホスト, ディレクトリ, .htaccess
上書き:	Indexes
ステータス:	Base
モジュール:	mod_autoindex

FancyIndexing において、ファイルの隣に表示するアイコンを設定します。 icon は、( % でエスケープされた ) アイコンへの相対 URL か、他の書式 ( alttext, url ) です。 ここで alttext は、非グラフィカルブラウザ向けにアイコンに付けられたテキストタグです。

MIME-type は、要求されたタイプに該当する ワイルドカード表現です。

例

```
AddIconByType (IMG,/icons/image.xbm) image/*
```

---

## DefaultIcon ディレクティブ

---

説明:	特定のアイコンが何も設定されていない時に ファイルに表示するアイコン
構文:	DefaultIcon url-path
コンテキスト:	サーバ設定ファイル, バーチャルホスト, ディレクトリ, .htaccess
上書き:	Indexes
ステータス:	Base
モジュール:	mod_autoindex

FancyIndexing において、特定のアイコンがない場合にファイルに表示するアイコンを設定します。 url-path は、( % でエスケープされた ) アイコンへの相対 URL です。

例

```
DefaultIcon /icon/unknown.xbm
```

---

## HeaderName ディレクティブ

---

Apache モジュール `mod_autoindex`

説明:	インデックス一覧の先頭に挿入されるファイルの名前
構文:	<code>HeaderName filename</code>
コンテキスト:	サーバ設定ファイル, バーチャルホスト, ディレクトリ, <code>.htaccess</code>
上書き:	<code>Indexes</code>
ステータス:	<code>Base</code>
モジュール:	<code>mod_autoindex</code>

`HeaderName` ディレクティブは、インデックス一覧の先頭に挿入するファイルの名前を設定します。 `Filename` は取り込むファイルの名前です。

## 例

```
HeaderName HEADER.html
```

`HeaderName` も `ReadmeName` も両方とも現在は、`filename` をインデックスされているディレクトリに用いられた URI に対する相対 URI パスとして扱います。 `filename` がスラッシュで始まる場合は、`DocumentRoot` からの相対パスとなります。

## 例

```
HeaderName /include/HEADER.html
```

`filename` は メジャーコンテンツタイプが `"text/*"` (例えば、`text/html`, `text/plain` 等です。) のドキュメントとして解決 されなければなりません。これはつまり、もし CGI スクリプトの実際のファイルタイプが 次のディレクティブのようにして実際の出力とは異なって `text/html` としてマークされている場合、`filename` は CGI スクリプトを参照するかも知れない、ということの意味します:

```
AddType text/html .cgi
```

`Options MultiViews` が有効になっている場合は、コンテンツネゴシエーション<sup>1</sup> が行われます。もし `filename` が (CGI スクリプトでない) 静的な `text/html` ドキュメントで解決され、`options Includes` か `IncludesNOEXEC` が有効になっている場合は、ファイルはサーバーサイドインクルードで処理されます (`mod_include` ドキュメントを参照して下さい)。

もし `HeaderName` で指定されたファイルが HTML ドキュメントの開始部分 (`<HTML>`, `<HEAD>`, 等) を含んでいたら、`IndexOptions +SuppressHTMLPreamble` を設定して、これらのタグが繰り返されないようにしたいと思うでしょう。

## IndexIgnore ディレクティブ

説明:	ディレクトリ一覧を行なう際に無視すべき ファイルリストに追加
構文:	<code>IndexIgnore file [file] ...</code>
コンテキスト:	サーバ設定ファイル, バーチャルホスト, ディレクトリ, <code>.htaccess</code>
上書き:	<code>Indexes</code>

## Apache モジュール mod\_autoindex

ステータス:	Base
モジュール:	mod_autoindex

**IndexIgnore** ディレクティブは、ディレクトリの一覧を行う際に無視すべきファイルリストに追加します。file は、無視するファイル名のファイル拡張子か、ファイル名の一部か、ワイルドカード表現か完全なファイル名です。IndexIgnore が複数ある場合は、無視するリストに追加が行われ、置換は行われません。デフォルトではリストには . (カレントディレクトリ) が含まれています。

```
IndexIgnore README .htaccess *
```

## IndexOptions ディレクティブ

説明:	ディレクトリインデックスの様々な設定項目
構文:	IndexOptions [+ -]option [[+ -]option] ...
コンテキスト:	サーバ設定ファイル, バーチャルホスト, ディレクトリ, .htaccess
上書き:	Indexes
ステータス:	Base
モジュール:	mod_autoindex

**IndexOptions** は、ディレクトリインデックスの挙動を指定します。option は次のどれかです:

## DescriptionWidth=[n | \*] (2.0.23 以降)

DescriptionWidth キーワードは説明コラムの幅を文字数で指定することができます。  
-DescriptionWidth (または非設定) で、mod\_autoindex が最適な幅を計算することができます。

DescriptionWidth=n で、コラム幅を n バイトに固定します。

DescriptionWidth=\* は、最長の説明に合わせて必要な長さまでコラムを延ばします。  
説明を丸め込んだ場合特有の危険については [AddDescription](#) セクションをお読み下さい。

## FancyIndexing

飾り付きインデックスをオンにします。

## FoldersFirst (2.0.23 以降)

このオプションが有効になった場合、サブディレクトリの一覧は必ず最初に現われて、そのディレクトリの通常のファイルはその後続きます。一覧は基本的には、ファイルとディレクトリの二つの部分に分けられて、それぞれは別々にソートされ、その後サブディレクトリを先にして表示が行われます。例えばソート順が名前の降順になっていて、FoldersFirst が有効になっている場合は、サブディレクトリ Zed はサブディレクトリ Beta よりも前にリストされ、通常のファイル Gamma や Alpha よりも前にリストされます。このオプションは FancyIndexing も有効になっているときにのみ、効果があります。

## HTMLTable (実験的、Apache 2.0.23 以降)

この実験的なオプションは FancyIndexing とともに指定することで、飾りの付いたディレクトリ一覧のためにテーブルを使った単純な表を作ります。これは古いブラウザを混乱させるかもしれないことに注意してください。WinNT やその他 utf-8 が有

効なプラットフォームのように、ファイル名や説明テキストが 右読みになったり左読みになりえる場合は特に必要です。

#### IconsAreLinks

これは、FancyIndexing において、アイコンもファイル名へのリンクの一部にします。

#### IconHeight[=pixels]

このオプションが、IconWidth とともに使われている場合は、サーバはファイルアイコンのための `img` タグに `height` と `width` 属性を取り込むようになります。これによって、イメージ全てをロードし終わるまで待たなくても、ブラウザはページレイアウトをあらかじめ計算することができます。このオプションに何も値が与えられなければ、Apache ソフトウェアで提供されているアイコンの標準の高さがデフォルトとなります。

#### IconWidth[=pixels]

このオプションが、IconHeight とともに使われている場合は、サーバはファイルアイコンのための `img` タグに `height` と `width` 属性を取り込むようになります。これによって、イメージ全てをロードし終わるまで待たなくても、ブラウザはページレイアウトをあらかじめ計算することができます。このオプションに何も値が与えられなければ、Apache ソフトウェアで提供されているアイコンの標準の高さがデフォルトとなります。

#### IgnoreClient

このオプションで `mod_autoindex` は、クライアントからの全てのクエリー変数を見捨てるようになります。これはソート順も含まれます。(つまり `SuppressColumnSorting` を暗に意味します。)

#### NameWidth=[n | \*]

NameWidth キーワードでファイル名コラムの幅をバイト数で指定できます。

-NameWidth (または非設定) で、`mod_autoindex` が最適な幅を計算するようにできます。

NameWidth=n で、コラム幅を n バイトに固定します。

NameWidth=\* は、必要な長さまでコラムを伸ばします。

#### ScanHTMLTitles

FancyIndexing のために、HTML ドキュメントからタイトルを取り出すことを可能にします。もしファイルに `AddDescription` で説明が与えられていなければ、`httpd` は `title` タグの値を読むためにドキュメントを読み始めます。これは CPU や disk に負荷をかけます。

#### SuppressColumnSorting

もし指定されていれば、Apache は FancyIndexing で表示されているディレクトリ一覧でのコラムの先頭を、ソートのためのリンクにしなくなります。デフォルトの挙動は、リンクとします。コラムの先頭を選ぶとコラムの値に従ってディレクトリリストをソートします。Apache 2.0.23 以前では、これは同時にソート文字列のためのクエリー引数の解析も無効にします。この挙動は Apache 2.0.23 では `IndexOptions IgnoreClient` で制御されるようになっています。

#### SuppressDescription

これは FancyIndexing におけるファイルの説明を消去します。デフォルトでは、説明は定義されておらず、このオプションを使うと他のために 23 文字の空白を稼ぐことができます。ファイルの説明に関する情報は、`AddDescription` をご覧ください。また、説明のコラムサイズを制限する `DescriptionWidth` インデックスオプションもご覧ください。

### SuppressHTMLPreamble

通常、 `HeaderName` ディレクティブで指定したファイルを ディレクトリが実際に含んでいれば、標準的な HTML プリアンブル (`<html>`, `<head>`, 等) の後に、モジュールはファイルの中身をインクルードします。 `SuppressHTMLPreamble` オプションは、この挙動を無効にできて、モジュールがヘッダーファイルの中身から表示を始めます。この場合、ヘッダーファイルは正しい HTML 命令を含んでいなければなりません。ヘッダーファイルが存在しない場合は、プリアンブルは通常通り生成されます。

### SuppressIcon (Apache 2.0.23 以降)

これは `FancyIndexing` の一覧からアイコンを消去します。 `SuppressIcon` と `SuppressRules` と組み合わせることによって正しい HTML 3.2 の出力が得られます。正しい HTML 3.2 出力は、最終規格において `img` と `hr` が `pre` ブロックに入る (`FancyIndexing` 一覧で書式に使われています) ことを禁止しています。

### SuppressLastModified

`FancyIndexing` 一覧において最終更新日時を表示を消去します。

### SuppressRules (Apache 2.0.23 以降)

ディレクトリ一覧において水平区切り線 (`hr` タグ) を消去します。 `SuppressIcon` と `SuppressRules` と組み合わせることによって正しい HTML 3.2 の出力が得られます。正しい HTML 3.2 出力は、最終規格において `img` と `hr` が `pre` ブロックに入る (`FancyIndexing` 一覧で書式に使われています) ことを禁止しています。

### SuppressSize

`FancyIndexing` 一覧においてファイルサイズを表示を消去します。

### TrackModified (Apache 2.0.23 以降)

これは HTTP ヘッダ中に、リストされたディレクトリの最終更新日や ETag 値を含めます。これは、オペレーティングシステムやファイルシステムが適切な `stat()` の返り値を返す場合にのみ有効です。いくつかの UNIX システム、OS2 の JFS や Win32 の NTFS ボリュームはそうなっています。例えば、OS2 と Win32 FAT ボリュームはそうではありません。この機能が有効になると、クライアントやプロキシは HEAD リクエストを行うことによって、ファイル一覧の変化を追跡することができるようになります。いくつかのオペレーティングシステムは、新規ファイルや移動ファイルは正しく追跡するけれども、ディレクトリ中のファイルのサイズや日付は追跡ないということに注意してください。既に存在するファイルのサイズや日付のスタンプが変化しても、全ての Unix プラットホームでは、最終更新日ヘッダーを更新しません。もしこれが重要であれば、このオプションを無効のままにしてください。

### VersionSort (Apache 2.0a3 以降)

`VersionSort` キーワードはバージョン番号を含んだファイルが自然な方法でソートされるようにします。文字列は通常通りソートされ、それ以外の、説明や名前中の数となる部分文字列はその数値で比較されます。

例:

```
foo-1.7
foo-1.7.2
foo-1.7.12
foo-1.8.2
foo-1.8.2a
foo-1.12
```

番号が 0 から始まる場合は、端数と考えられます

```
foo-1.001
foo-1.002
foo-1.030
foo-1.04
```

### 増減指定できる IndexOptions

Apache 1.3.3 では、`IndexOptions` ディレクティブの扱いで幾つかの大きな変化が導入されました。特に、

- 一つのディレクトリに対する複数の `IndexOptions` ディレクティブは、現在では一つにマージされます。上の例の結果は、

```
<Directory /foo>
  IndexOptions HTMLTable
  IndexOptions SuppressColumnsorting
</Directory>
```

と同一になります。

```
IndexOptions HTMLTable SuppressColumnsorting
```

- 増減構文（すなわち、`'+'` や `'-'` の接頭辞が付くキーワード）の追加。

`'+'` や `'-'` 接頭辞の付いたキーワードに出会うとそれは、その時点での `IndexOptions` の設定（これは上流のディレクトリを受け継ぎます）に対して適応されます。しかしながら、接頭辞の付かないキーワードが処理された場合は、受け継いだオプション全てとそれまで出会った増減設定全てが 消去されます。次の例を考えてみてください：

```
IndexOptions +ScanHTMLTitles -IconsAreLinks FancyIndexing
IndexOptions +SuppressSize
```

中身の効果は `IndexOptions FancyIndexing +SuppressSize` と同一です。接頭辞の付かない `FancyIndexing` でそれ以前の増減キーワードを無効にされて、その後の累積が始まるからです。

無条件に `IndexOptions` をあるディレクトリで設定することによって 継承した設定を消去して、`+` や `-` 接頭辞の付かないキーワードで設定してください。

## IndexOrderDefault ディレクティブ

説明:	ディレクトリインデックスの標準の順番付けを設定
構文:	<code>IndexOrderDefault Ascending Descending Name Date Size Description</code>
デフォルト:	<code>IndexOrderDefault Ascending Name</code>
コンテキスト:	サーバ設定ファイル, バージョンホスト, ディレクトリ, <code>.htaccess</code>
上書き:	<code>Indexes</code>
ステータス:	<code>Base</code>
モジュール:	<code>mod_autoindex</code>

---

Apache モジュール mod\_autoindex

---

`IndexOrderDefault` ディレクティブは `FancyIndexing` インデックスオプションと併せて用いられます。デフォルトでは、`FancyIndexing` のディレクトリ一覧はファイル名の昇順で表示されます。`IndexOrderDefault` で、初期状態の表示順番を変えることができます。

`IndexOrderDefault` は二つの引数をとります。一つ目はソートの方向を指示する `Ascending` か `Descending` のいずれかです。二つ目の引数は `Name`, `Date`, `Size` か `Description` のいずれか一つのキーワードであって、プライマリキーを指定します。二つ目のキーは常にファイル名の昇順になります。

このディレクティブと `SuppressColumnSorting` インデックスオプションとを組み合わせることで、ディレクトリ一覧をある特定の順番でのみ表示するようにできます。これは、クライアントが別の順番でディレクトリ一覧をリクエストすることを防ぎます。

## ReadmeName ディレクティブ

---

説明:	インデックス一覧の最後に挿入されるファイルの名前
構文:	<code>ReadmeName filename</code>
コンテキスト:	サーバ設定ファイル, バーチャルホスト, ディレクトリ, <code>.htaccess</code>
上書き:	<code>Indexes</code>
ステータス:	Base
モジュール:	<code>mod_autoindex</code>

`ReadmeName` ディレクティブは、インデックスの終わりに付け加えられるファイルの名前を設定します。`filename` は挿入するファイルの名前で、一覧の行われている位置から相対的なものとして解釈されます。`filename` がスラッシュで始まる場合は、`DocumentRoot` からの相対パスとなります。

### 例

```
ReadmeName FOOTER.html
```

### 例 2

```
ReadmeName /include/FOOTER.html
```

より詳細にまでこの挙動について記述している `HeaderName` もご覧ください。

## URI References

---

[1] <http://httpd.apache.org/docs-2.1/content-negotiation.html>